

新刊紹介

パウル・エルツバツヘル著

アナキズム

付・ロッカー「アナキズムとアナルコ・サンジカリズム」

「エンサイ・クロベシア・ブリタニカ」第十一版第一巻所載の「アナキズム」を担当したクロボトキンが、本書にふれて「ドイツの裁判官、パウル・エルツバツヘル著『アナキズム』は、アナキズムに関する最良の著述であり、また実際にアナキズム文献についての十分な知識をもって書かれた唯一のもの」と推奨をおしまない。(一九〇一—一九一一年)

このエルツバツヘルの著書がベルリンで出版されたのは、一九〇〇年—ヨーロッパの新聞が一八八一年のロシア皇帝アレキサンダー二世の暗殺をはじめとして過去二十年にわたる各国の主として政府要人に対するわずかのかりのめざましい些少の暗殺によってひきおこされたセンセーショナルリズムにのぼせあがっていたころのことである。

当時、エルツバツヘルについて知られていたことといえば、かれがドイツ人だということ、そしてかれはアナキストではないということ

ことくらいのものであったという。しかも、この書物は、この種の他のどんなものよりもひろい読者を獲得した。そして出版の翌年の一九〇一年にはスペイン語に、一九〇二年にはフランス語、一九〇三年にはオランダ語に翻訳された。それから五年たつて英訳され、その翌年にはイデオロギッシュ語版、さらにその後ブルガリアに、ややおくられて日本にも移植された。(ヘッカー「ロシア社会学」(波多野鼎訳)。ベルンシュタイン「修正派社会主義論」(嘉治隆一訳)について、新人会叢書第三篇として若山健二訳「無政府主義論」が出版されたのは大正二(一九一二年)年五月のことである。全体にわたって伏字と削除のめだつことはいうまでもない。)

エルツバツヘルは一八六八年二月、ドイツコロニスに、サロモン・エルツバツヘル博士の息子として生れた。ドイツの有名ないくつかの大学に学んで法学博士の学位をうけ、は

じめハーレ大学で員外講師に、のちにベルリンのハンデルショハシユレで法学教授となつて、ここで生涯をおわった。ハーレで法律を講じたかわり、裁判官補の職を奉じているあいだに本書の発行をみたのだが、かれは多産の著者ではあるが、アナキズムについて述べたものには他に「政治便覧」中に圧縮した短文があるだけである。このことから察せられるように、かれはアナキズムに對しきわめて公正ではあるが、どちらかといえは好意を寄せた人物とはいえない。

こんど(一九六〇年)ニューヨークの「リバーリアン・ブック・クラブ」から、もとインディビジュアル・アナキストのタッカーの出版にかかるステイブ・バイニングトン訳が再刊されたわけである。原著が出てからすでに六十余年、アメリカで出版されてからも半世紀あまりをへている。それは本書の評価についてクロボトキンが表明した確信が今日もなお通用しうるためにほかならないと、編纂者はいっている。そして、アナキズム理論のエッセンスを手頃な大きさの巻におさめようとする努力の成果として、たとえどのような欠点があろうとも、また理解の不足があったにせよ、本書はユニークなものである

という。生起する問題はつねに、集積されたアナキストの見解の核心から理解され対処されなくてはならないという意味で、たしかに本書の復刊は「知的歴史のための文献、一般にいて思想史にとって」なみなみならぬ意義あることである。

本書の内容は、ゴッドウィン、ブルードン、スチルネル、バクニン、クロボトキン、タッカー、トルストイの、近代アナキズムの歴史のうえで重要な七人について、概説・根本思想・法律論・国家観・財産論・実現方法の六項目にそれぞれわけて、出典をあげながらその真意を追及することを主眼としている。そして、まず第一章問題・第二章法律・国家・財産において全体を概観すると同時に、最後の第十一章アナキズム学説、第十二章アナキズムとその分派によってしめくくっている。(大きさは、四百字詰訳稿にしておそらく六百枚をくだらないだろう。)

しかし、編纂者もいっているように、それぞれまえおきでふれている人物論は簡単にすぎ、人物を知るうえですこしも役立たない場合もないではない。新版では、その他の欠点をもあわせて註で極力おぎなう努力がみられるが、なんといっても原著が、一九〇〇年

に書かれたという弱点を、巻末に第二部としてルドロフ・ロッカー「アナキズムとアナルコ・サンジカリズム」をつくくわえることで解決しようとしている。

ロッカー(一八七三—一九五八年)は、前世紀末から現在にかけてアナキズム運動を鼓舞し指導した思想家・闘士のかがかしい世代に属する最後の一人で、「ナショナリズムと文化」をはじめすぐれた著述をのこしている。

本文は一九四八年、ニューヨークで発行された哲学著書の一冊「ヨーロッパ・イデオロギー」におさめられている論文を再録したものである。内密は、四百字詰訳稿で百枚あまり、アナキズム、イデオロギー、アナキズム哲学史、アナルコ・サンジカリズムのその起源、フランスにおける社会主義とアナルコ・サンジカリズム、労働組合の役割—アナルコ・サンジカリストの見解、ドイツおよびスペインにおける闘い、政治闘争—アナルコ・サンジカリストの見解、第一次大戦以降のアナルコ・サンジカリズム以上の八項目にわかつて、要するに近代アナキズムの思想と行動の要点を提供している。

本書は、右であきらかなように、アナキズ

ム思想の公正な理解に役立つことを目的としたもので、これに現実の要求にこたえるものを見出だそうとするのはもとよりむりだが、しかし思想の十分な理解なしにはそれはついにえられないこともたしかである。本書の再版に接して、ひきびきに渴を医す思いがするのはひとり筆者ばかりではないだろう。

(遠)

P. B. K 叢書
久保 譲 著

¥50

スペイン革命

—CNTを中心として—

スターリニストの手によって故意にかくされた1936~9年 スペイン革命の実態を、その中核となつた労働者組織C・N・Tを中心にえぐる……

申込・神戸市兵庫区熊野町
4-23(前田方)

P. B. K の会

編集後記

▼改題第一号を送る。関西地協から本号に關する編集の委任を受け、あわただしく編集をすませたが、われわれの意図する方向はほぼ表現することができたように思う。もちろんその内容に關してはまだまだ十分の出来栄とはいえないが、同志及び読者の徹底的な批判と討論を通じて、層一層の充実を期してゆきたい。

▼本号は「現代とアナキズム」を特集した。図書新聞五九四号が「日本のアナキズム」の特集を、ピント外れな筆者を揃えたにしても組まざるをえない時点に、われわれは置かれている。「現代とアナキズム」はまさにこのような時点の要請に答えることをねらった。江原健人君の六十枚の力作「アナキズム理論の総括とその展望のために」は、新人らしい大胆な視野で従来のアナキズム理論の欠陥を鋭く追求したもの、本人も自認している通り走り書めど、新たな問題提起を多く含んでいる。遠慮のない批判を待ちたい。過去の「プロレタリアートの独裁と連合主義」は公表されるまえにすでに江原論文がくっついてかかっているように論争の種になりそう。

望むところである。

▼今後、毎号、アナキズムになんらかの形で関心を示している人たちの、部外者から見たわれわれに対する批判や感想を載せてゆくつもりで、その第一回を植谷雄高氏にお願いした。忙しいなかを快よく寄稿して下さい。植谷氏に改めて感謝の意を表したい。

▼ヴォーリン「クロンスタット1921年」は、秘められたロシア革命史の「こまを伝えるものとして、あえて掲載した。三号にわたって連載の予定だが、引き続きおなじくヴォーリンの「マフノ運動」も紹介してゆきたいと思っている。クロンスタットについても、マフノ運動についても、さらにはロシア革命におけるアナキスト、アナルコサンジカリストの活動についても、知られないことがあまりに多い。今後、これらの点にも力を入れてゆきたい。

▼当初編集委員会で話合われたプランの一つに、国際アナキズム運動の理論活動の紹介と検討があり。スペイン語に明るい青島茂君に特にスペイン語系アナキストの活動の紹介をお願いしたが、なんせ短時日のために、切に間に合わず、次号へ見送りとなった。

▼いずれにせよ、本号はいわば試作品で、春

の臨時大会において十分討議の上、今後の編集体制や経営問題が決定されなくてはならない。われわれの力はまだまだ経済的にも、組織的にも微弱で、すべては未来にかけられている実状だが、それだけにまたやり甲斐があるというものだ。張切りすぎて時には脱線することもあるかもしれないが、力一杯あばれ廻ろうではないか。

▼最後に本号の発行にさいして資金カンパにに応じてくれた同志、読者の各位に厚く御礼申し上げると同時に本誌の宣伝配布に一層の努力を傾けるよう、全国の同志諸君に要請するかたちで、今号が生れた。それにしてもその新鮮な意欲をまえにしては、ぼくらもうじうじしてはおられない。関西地協がいつのまにかおちいっていった沈滞をぶちやぶるためにも経営的には非常に大きい不安と危険の責任をしりこみするわけにはいかない。四月二十九・三〇日ひらかれた連盟臨時大会への関西からの参加者は、若く新しい同志がめだつた。東京との交流や刺激によって地協内でも新人たちの、大胆率直で無遠慮な発言と行動が今後期待される、いまは何よりも、そのことが必要だ。

(向井)

ヒロバ 6

- ★特集 関西のアナキズム運動
- ★私の歩いて来た道…… 河本 乾次
- ★ふりかえってみて…… 篠部義之助
- ★想い出の人々…… 小松亀代吉
- ★わが自伝的回想…… 久保 譲

ヒロバ 7

- ★権力の理解の仕方について
……大沢 正道
- ★フルシチョフの分業主義…小川 正夫
- ★経済従属化の実態と構造…崎 本 正
- ★石川三四郎追悼………

ヒロバ 8

- ★原水爆禁止世界大会をめぐって
……大沢 正道
- ★世界大会参加報告… 山鹿 泰治
- ★原水爆運動の問題二つ三つ
……向 井 孝
- ★一形態としての評議会社会主義
……久保 譲

ヒロバ 9

- ★行動的アナキズムの諸運動(上)
……大沢 正道
- ★戦後十年間の世界の
アナキスト運動機関紙一覧(上)
- ★未組織労働者の組織化と
最低賃金制… 高 島 洋
- ★崎 本 正 追 悼 特 集

ヒロバ 10

- ★行動的アナキズムの諸運動(下)
……大沢 正道
- ★世界市民の空想と現実… 山鹿 泰治
- ★一つの問題提起について
- ★戦後十年間の世界のアナキスト運動
機関紙一覧(下)

ヒロバ 11

- ★国家によらざる革命の実現
(スペイン革命)……久保 譲
- ★戦争抵抗者インター(WRI)
過去・現在・未来…山鹿 泰治
- ★原水爆死か社会革命か
……大沢 正道

ヒロバ 12

- ★社会主義と国家…… R・ロッカー
- ★大沢論文をめぐって… 小川 正夫
- ★アナキストの党の役割……草階 俊雄
- ★日本の自由連合主義労働運動①
……河本 乾次

ヒロバ 13

- ★サンジカリズムの思想(上)…大沢正道
- ★打算と依存の労働運動… 高 島 洋
- ★海外情報—スペイン語を喋る国の
労働者の斗争—
- ★日本の自由連合主義労働運動②
……河本 乾次

無政府研究 14

- ★サンジカリズムの思想(下)…大沢正道
- ★スペイン革命の実存的側面とその教訓
……小川 正夫
- ★マルグスの国民経済学的誤謬
……P・ラームス
- ★日本の自由連合主義労働運動
……河本乾次

無政府研究 15

- ★分裂主義に先制攻撃を……向 井 孝
- ★マルグスの国民経済学的誤謬
……P・ラームス
- ★空一元論とアナキズム……青 島 茂
- ★日本の自由連合主義労働運動
……河本 乾次